

牛久：学校周辺に見る自然

第40号 ひたち野うしく小

2020年8月3日発行

＜ 生きもの発見！ ～休み時間に＞

こんにちは。ひたち野うしく小2年生との「生きもの発見」、今回はおまけに、次のクラスが始まる前に、私が校舎のまわりで見つけた生きものたちを紹介します。



ホウセンカのみつを吸う、ヒメハラナガツチバチのめす。

3年生のホウセンカでは、ヒメハラナガツチバチのめすがみつを吸っていました。土の中にあるコガネムシ類の幼虫にたまごを産むので、このなかまを「ツチバチ科」とよんでいます。おすは触角が長く、区別できます。ハチはみつを出すところがわかっているようで、まっすぐその場所へ向かいます。



ツルレイシ（上左）と、そのみつを吸うキンケハラナガツチバチのおす（上中・上右）、ヒメハラナガツチバチのめす（下左・下中）、トラマルハナバチ（下右）。

ツルレイシにも、いろいろなハチが来ていました。触角の長いのは、キンケハラナガツチバチのおす。よく似たヒメハラナガツチバチは、羽のはじが黒いので区別できます。ずんぐりしたのは、トラマルハナバチ。体が丸くて、花のみつを吸うので「丸花蜂（まるはなばち）」です。



ブタナの花粉やみつをなめる、ツマグロキンバエ。

ビオトープの手前にさいていたブタナには、おもしろい目をしたハエがいましたよ。キンバエの親せきで羽のはじが黒いので、ツマグロキンバエといいます。キンバエは動物のフンや死体にきますが、このツマグロキンバエは、花にきて、長い口先をのばして花粉やみつをなめます。



校舎のかべには、みのの入り口に自分の頭の脱皮殻をくっつけるミノムシ、ニトベミノガがぶらさがっていました。コガネグモのなかまでお腹が長めのナガコガネグモは、おすもめすもいました。コンクリートのかべでは、クロヤマアリとクロオオアリがかみつきあい、引っぱりあっていました。チャイロムシヒキは小さなハエをつかまえていましたが、近くにミミズの死体があったので、そこにきていたハエかもしれませんね。

【理科支援員：宮内】

かべにぶらさがるみのむし(左上:ニトベミノガ)と、ナガコガネグモのおすとめす(右上:左の小さいのがおす)、かみつきあうクロヤマアリとクロオオアリ(左下:下の大きいのがクロオオアリ)、ハエをつかまえたチャイロムシヒキ(右下)。